

令和3年度年度 学校評価書

令和4年3月31日
 学校法人山名学園 山名幼稚園長 諸井理恵
 山名幼稚園学校評価委員会

- 幼稚園の教育目標
 - 元気な子 … ①戸外でなかよく遊ぶ子 ②正しい生活習慣を身につける子
 - やさしい子 … ①情緒豊かで思いやりのある子 ②自分や友達を大切に使う子
 - 考える子 … ①物事に興味をもち考えたり工夫したりする子 ②最後までやりとげる子
 - ありがとうのいえる子 … ①感謝の気持ちを持てる子 ②ものをたいせつにする子
- 本年度の重点課題 「明るいあいさつのある環境」「がんばる力を引き出す環境」「思いやりの生まれる環境」「祈りと感謝のある環境」心の成長のための環境の充実を目指す。
 感染症対策をし、子どもたちの安心安全な環境を守りつつ、工夫して子どもたちの成長にとって必要な活動と学びの場を考えていく。

3. 評価項目に対する自己評価及び学校評価

| 項目 | 評価点 | 自己評価結果 | 評価点 | 学校評価結果 |
|--------------|-------------|---|------|--|
| 目別評価 | 幼児の姿 | A (年少児)人の話を聞ける姿勢が育ってきた。コロナ渦で自粛登園のある中、欠席している子が登園できるよう祈り合う姿があり、思いやりの心が育っている。(年中児)自分の考えを言葉にして伝える行動が増えた。友達への配慮がある言葉がけがあり、他者への思いやりが育っている。(年長)様々な挑戦のステージで、目標を持って取り組む姿勢と「がんばりたい」という意欲が育っている。明るく物事をとらえ、自分の思いを伝え、探求心をもって取り組む姿勢があった。 | A | 明るいあいさつのできる素直な子供が多いと感じる。園の教育目標に即した元気な子供たちが育っていると感じる。 |
| | 幼児への対応 | B 子どもたちが幼稚園の生活が楽しいと思えるよう、保育者自身も一緒に楽しみ一緒に喜び合うように心がけた。前向きな言葉がけや、感謝の言葉を伝えながら、保育者自身が感情豊かに過ごすことにより、自己表現ができる子どもたちを育てようと試みた。また、子どもたちが意見を出し合い、自分で考えることができるよう、考えることの楽しさを味わえるように言葉がけを工夫した。課題としては、発言のできる子中心にならないよう全体に配慮や工夫をしていきたい。 | A | 制限のある中でも、子どもたちのがんばる力を引き出すための活動を止めることなく続けることに努力してきたことや、子どもたちに多様な体験の機会を与え続けた職員の姿勢は評価に値する。 |
| | 保護者への対応 | B コロナ禍の中、参観の機会が少ないことや行事が縮小したこともあり、園の様子が伝わりずらかったが、お便りや動画などで伝える努力をした。園と保護者の連携の上から、個別対応の機会を増やしたいがコロナ渦もあってなかなか対応できていないため、面談や相談の機会を増やすことを今後の課題としたい。新型コロナウイルス感染拡大の際、自園では感染者はわずかだったが、検査キットを使い不安のある方に検査をしてもらった。 | A | 感染症対策の取り組みについて様々な考え方がある中、園として、すべての保護者の要望を満たすことは難しかったと思う。父母の会総会を動画配信にするなど、必要なことを続けるための努力をしている。 |
| | 教育内容環境 | A 伝統的に続けてきた活動の見直しをし、新しい方向性を模索し取り組んだ。子どもたちが主体的に考え、遊びや活動の展開ができるように今後も改善を加えていく。園庭の一角に植樹し、自然と触れ合える環境づくりにも力を入れた。インターネット環境を全館整備、教職員に一人1台のパソコンを用意し、オンライン研修や日々の保育の記録作業等がスムーズになった。 | A | 就学前の3年間に、基本的生活を身に着けさせることができている。新園舎を囲む雑木の庭づくりに取り組んでいる。子どもたちが自然の移ろいを感じることでできる環境は、子どもの感性の育みにつながらると思う。 |
| | アンケートからの気づき | B コロナ禍の中での活動に、協力的な保護者が多く、園としてもありがたい1年だった。おおむね、保育内容には満足していただけたが、やはり保護者向けの活動が乏しかったことから、保護者参加行事を次年度望む声が多い。特色を生かした、体験の豊富さを評価していただいた。リズムフェスティバルのライブ配信や、総会、保育参観を動画配信に変えるなど評価いただいたが、配信期間の見直しを求める声もあり、試行錯誤の中ではあるが、適正に改善していきたい。 | A | 園全体の評価は高い。保護者からの感謝の言葉も多い。多様な要望について職員でよく話し合われている。良き伝統も守り育てていってほしいと感じる。 |
| 本年度の総合評価 | | 幸運にも、園内で感染拡大による学級閉鎖や保育の中断はなかったため、通常保育を続けることができた。昨年の課題に職員が前向きに取り組み、新しい試みにも挑戦し、少しずつではあるがコロナ渦の中でも前進した1年だったと評価したい。変化をもたらすことは、保護者の信頼と理解が不可欠であり、入念な説明努力が欠かせないと感じる。事前説明で伝わりづらいことは、事後の報告と説明をすることで理解いただけてきたようである。子どもたちの活動の上で、コロナ禍で困難なこともあったが、その中でも多くの体験と成長があったと感じる。地域の方にも協力を求める活動の中、園の認知と理解が得られた。 | 総合評価 | 保護者も園に協力的であり、協同して子どもたちを育てている。本年も伝統的に続けてきた年長児のおちばがえりが行うことができなかつたことは残念であるが、地域とつながり街のイベントに協力している。この先も地域から信頼を寄せられている園として、保育の質の向上に努めてもらいたい。 |
| 今後の課題取り組みの考察 | | 新たな保育環境や改善された職場環境を生かし、よりよい保育と、職員の働き方の改善に取り組むたい。今後も、これからの時代に必要とされていく生きる力につながる学びの要素を積極的に取り入れていく。近年、保護者に対して何かと細やかな説明がかかせない。保護者に対してスピード感をもって早めの告知と直前の告知が求められる。また、子どもたちの園での様子をより多く知りたい声もあったため、業者による保育写真撮影と閲覧・販売も3学期より始めた。コロナ渦で保育参観が難しくなった今の取り組みとして必要と感じる。次年度も、挑戦することを恐れず、気づいたことを実行し、トライ＆エラーを繰り返し問題解決に臨むよう、職員一丸となって進めていきたい。 | 総合所見 | 伝統的な取り組みを残しつつ、新しい学びも取り入れる努力をしている。変化変容を迫られる昨今、保育の質を問いながら園としての模索をしている様子がうかがえる。時代の変化に対応しながら、これまでの保育実績を守り育てていっている。 |

※評価点の表示方法 A・・・十分達成されている B・・・達成されている C・・・取り組んでいるが成果が十分でない D・・・取り組みが不十分である